

1980年創業のスケート店「スポーツのセオ」(帯広市東2南6)が3月31日で閉店する。店主の妹尾正美さん(77)はスケート靴にエッジ(刃)を取り付ける十勝では数少ない職人。昨年、病気を患ったことをきっかけに引退を決意し、32年の歴史に幕を閉じる。「子供が笑顔で記録更新や優勝を報告しに来てくれたから、ここまで続けてこられた」と感謝している。

## 市内「スポーツのセオ」来月末閉店



3月末閉店する「スポーツのセオ」の妹尾さん夫妻(金野和彦撮影)

# スケート靴職人32年妹尾さん勇退

## 「子供の笑顔励み」

妹尾さんは幕別町生まれ。町内と市内の靴店で25年間、靴作りの腕を磨き、電信通沿いに同店を開業し

た。妻の千恵子さん(72)とともに店を切り盛りし、夏は野球用品、冬はスケート用品を取り扱い、スケートのエッジの取り付けと研磨、修理などを手掛けている。スピードスケートの練習に励む小・中学生が店に足を運び、その中には幼かった及川佑選手(池田高出)や仁科有加那選手(帯南商

高出)など国内トップレベルの選手たちの姿もあった。妹尾さんは「子供たちがスムーズに滑れるように、エッジの位置の調整には力を入れた」と振り返る。現在もスケート靴メーカーからの依頼を受け市販用の靴にエッジを取り付ける作業を1日50〜60足仕上げている。「子供が減って、靴の数も最盛期の半分以下になった」と話し、閉店まで最後の仕事に熱を入れている。(深津慶太)